

## 下北森林管理署モニターによる国有林の視察

当署では、東北森林管理局の国有林モニターに選出された管内在住の方の中から「下北森林管理署モニター」を依頼しており、4年目となる今年度も7名の方々にお願いしております。

モニターの方々には、年4回ほどの現場視察や署主催行事への参加をお願いし、国有林の現場を知っていただくと共に、ご意見やご要望をお聞かせいただきたいと思いますと考えております。

6月29日に開催した第1回目の国有林視察では、まず薬研方面に向かい、「森の巨人たち100選」にも選ばれているクリの巨木「おぐり」を観察しました。現地までは15～20分の登りが続きましたが、爽やかな空気の中、みな軽快な足取りでヒバ林の散策を楽しみながら到着しました。樹齢800年以上で幹周7m80cm、樹高27mの堂々とした「おぐり」の姿を目にした6名のモニターは、その迫力に圧倒されている様子でした。



次にスギの新植箇所へ移動しました。分収育林跡地に再造林した箇所でしたが、スギの伐根だけでなく、約50年前の前生樹であるヒバの伐根も未だに残っており、ヒバの持つ耐久性にみな感心していました。

次に、昨秋と今春に植栽されたヒバ人工林箇所へ移動し、現在の成育状況を観察しました。芯の部分がかモシカの食害を受けていた苗もありましたが、概ね順調に育っており、「今後はヒバや広葉樹の植樹を増やすべきでは」との声も聞かれました。

その後、恐山で森林生態系保護地域についての説明を行いながらむつ市内に移動し、保安林の機能についての説明と、森林及び林業の動向や林業施策についての説明を行いました。モニターの皆さんはみな熱心に耳を傾けており、有意義な1日となった様子でした。

モニター制度は、地域の方々に国有林野事業に対する理解を深めていただく機会であるのと同時に、様々な視点から職員には気づきにくい問題点などを教えてくれる大変貴重なものであり、国民のための森林づくりの一環として今後も継続していく予定です。

